

Kindle原稿を最速で完成させる

自分で書く方法と、AIを使って作る方法を分けて解説

テーマが決まった。

読者が決まった。

企画、タイトル、構成も作った。

ここまで来たら、次はいよいよ原稿作成です。

しかし、原稿を書き始めた途端、

「最初の数ページから進まない」

「一文書くたびに修正してしまう」

「仕事や家事が忙しく、書く時間を確保できない」

「AIを使ってみたけれど、どこかで見たような文章になった」

「自分で書くべきか、AIに任せるべきかわからない」

と、手が止まっていますか？

原稿作成には、大きく分けて2つの進め方があります。

一つは、自分で文章を書き上げる方法。

もう一つは、自分の経験や考えを材料にして、AIと一緒に原稿を作る方法です。

どちらが正しいという話ではありません。

自分の目的、使える時間、文章を書くことへの慣れによって、向いている方法は変わります。

ただし、最初に一つ知っておいてほしいことがあります。

AIを使う方法は、

「AIにテーマを渡して、一冊分を勝手に書いてもらうこと」

ではありません。

それでは、一般的な情報を並べただけの原稿になりやすくなります。

AIを使って最速で本を作るために必要なのは、

- ・自分の経験
- ・自分の考え
- ・読者へ伝えたいこと
- ・本の企画
- ・章と見出し

を先に用意し、その材料をAIに整理してもらうことです。

私たちが大切にしているのは、

AIに本を書いてもらうことではなく、自分の中にあるものを、AIを使って最速で本の形にすることです。

今回は、

- ・時間をかけて、自分で一文ずつ書きたい方
- ・AIを使って、できるだけ早く原稿を完成させたい方

それぞれに向けて、進め方を分けて解説します。

原稿を書く前に、ここまでの準備を確認する

原稿が進まない原因は、文章力だけではありません。

それ以前の準備が曖昧なまま、書き始めている場合があります。

原稿を書く前に、次の内容が決まっているか確認してください。

- ・何について書くのか
- ・誰に向けて書くのか
- ・読者のどんな悩みを解決するのか
- ・読後にどうなってほしいのか
- ・どの順番で伝えるのか

これらが決まっていない状態で原稿を書こうとすると、

「この話も入れた方がいい」

「別の読者にも役立つかもしれない」

と内容が増え続けます。

このシリーズでは、原稿を書く前の準備を、次の回で詳しく解説しています。

テーマが決まっていない方

第3回

「本のテーマが決まらない人へ 自分の経験からKindle出版のテーマを見つける方法」

自分の経験から、出版テーマを見つける方法を解説しています。

※ここに第3回の記事リンクを挿入

読者がぼんやりしている方

第4回

「『誰にでも読んでほしい本』が、誰にも刺さらない理由」

誰に向けて書くのかを、一人まで具体化します。

※ここに第4回の記事リンクを挿入

本の方向性がまとまっていない方

第5回

「書きたいことだけでは選ばれない 読者に選ばれるKindle企画の作り方」

読者、悩み、方法、読後の変化を企画文にします。

※ここに第5回の記事リンクを挿入

章や見出しができていない方

第7回

「原稿を書く前に必ずやる Kindle本の構成・目次の作り方」

本全体を、実際に書ける見出しまで分解します。

※ここに第7回の記事リンクを挿入

今回の記事では、テーマや構成の作り方を最初から繰り返しません。

まだ決まっていない部分がある方は、必要な回へ戻ってから進めてください。

原稿作成を早く終わらせるためにも、書き始める前の準備が大切です。

自分で書く方法と、AIで作る方法を混ぜない

原稿作成で迷いやすいのが、

「できるところは自分で書き、止まったところだけ何となくAIに任せる」

という進め方です。

この方法が悪いわけではありません。

しかし、使い方を決めずにAIを入れると、

- ・自分で書いた部分と、AIの文章の雰囲気が違う
- ・同じ説明が何度も出てくる
- ・AIが勝手に内容を追加する
- ・全体の方向性がわからなくなる
- ・修正に時間がかかる

という問題が起こることがあります。

そこで、まずは次の2つのルートから、中心となる方法を決めます。

ルートA 自分で書き上げる

自分の言葉で、一文ずつ原稿を作る方法です。

文章を書く時間はかかりますが、体験や感情をそのまま表現しやすくなります。

ルートB AIを使って最速で作る

AIから質問を受け、自分が回答する。

その回答をもとに、AIに下書きを作ってもらう方法です。

文章作成の時間を大きく減らしながら、自分の経験を原稿に残せます。

どちらか一つしか使ってはいけないわけではありません。

ただし、

「今回は自分で下書きを作り、AIには文章整理だけを任せる」

「今回はAIで下書きを作り、自分は事実確認と修正を行う」

のように、役割を決めておくことが重要です。

どちらの方法を選べばいいのか

次の項目を参考にしてください。

自分で書く方法が向いている人

- ・文章を書くこと自体を楽しみたい
- ・自分の話し方や表現を強く残したい
- ・エッセイや体験談が中心の本を書きたい
- ・時間をかけて考えを整理したい
- ・AIが作る文章に違和感がある
- ・執筆そのものを経験したい

AIで作る方法が向いている人

- ・できるだけ早く出版したい
- ・文章を書くことに苦手意識がある
- ・話すことならできるが、文章にできない
- ・仕事や家事で執筆時間を取りにくい
- ・ノウハウや経験はあるが、整理できない
- ・一人では原稿が途中で止まりやすい

自分で書いて、AIに整えてもらう方法が向いている人

- ・自分の文章は書けるが、読みやすく整えるのが苦手
- ・同じ説明を繰り返してしまう
- ・文章が長くなりやすい
- ・誤字や表現の確認に時間がかかる
- ・自分の言葉は残したい

自分に合わない方法を選ぶ必要はありません。

大切なのは、原稿を完成させることです。

AIを使えば、企画がなくても本が作れるわけではない

AIへ、

「Kindle出版について一冊書いてください」

と入力すれば、文章そのものは作れます。

しかし、その原稿が読者に選ばれる本になるとは限りません。

なぜなら、AIは入力された情報をもとに文章を作るからです。

こちらから、

- ・誰に向けた本なのか
- ・何を伝えたいのか
- ・どの経験を入れたいのか
- ・読者をどこまで連れていくのか

を伝えなければ、一般的な内容になりやすくなります。

AIを使って最速で本を作る場合も、最初に必要なのは企画と構成です。

AIが速くできるのは、

すでにある材料を整理し、文章へ変える作業
です。

何を伝える本なのかまで、AIへ丸投げしないようにしてください。

AIで作った原稿が「自分の本」に見えない理由

AIを使ったときに、

「文章はきれいだけれど、自分が書いた感じがしない」
と感ずることがあります。

主な原因は、AIへ渡している材料が少ないことです。

たとえば、

「40代向けの副業本を書いてください」

とだけ頼んだ場合、AIは一般的な副業情報を使って文章を作ります。

そこには、

- ・なぜ自分が副業を始めたのか
- ・最初にどこで失敗したのか
- ・何をやめたことで楽になったのか
- ・相談者から何を聞かれたのか
- ・今の自分なら初心者へ何を伝えるのか

といった、その人にしか書けない情報がありません。

AIを使っても、自分らしい本を作るためには、先に自分の材料を渡す必要があります。

自分で書く場合も、AIで作る場合も必要な3つの材料

どちらの方法を選んでも、次の3つは必要です。

1. 見出し

何について書くのかを、小さな単位まで決めます。

構成と見出しの作り方は、第7回で詳しく解説しています。

※ここに第7回の記事リンクを挿入

2. その見出しで伝えること

一つの見出しで伝えたい結論を、一文にします。

3. 自分の経験や具体例

自分が実際に経験したこと、失敗したこと、工夫したことを用意します。

この3つがあれば、自分で書く場合も、AIを使う場合も原稿を進めやすくなります。

ここまで読んで、どちらの方法で進めますか？

ここまで、自分で書く方法とAIで作る方法の違いを紹介しました。

自分の言葉で、時間をかけて一文ずつ書く。

AIから質問を受け、自分の回答を原稿へ変えてもらう。

どちらにも良さがあります。

しかし、実際に原稿を作り始めると、さらに細かな疑問が出てきます。

自分で書く場合

- ・見出しはあるが、一文目が出ない
- ・体験談が自分語りになる
- ・書いては直すことを繰り返してしまう
- ・どこまで書けば完成かわからない
- ・仕事や家事の中で、書く時間を作れない

AIで作る場合

- ・AIへ何を入力すればいいかわからない
- ・一般的な文章しか出てこない
- ・自分が話していないことを追加される
- ・章ごとに文章の雰囲気が変わる
- ・原稿が長くなりすぎる
- ・事実確認をどこまで行えばいいかわからない

ここから先では、2つの方法を完全に分けて解説します。

前半では、自分で一文ずつ原稿を書き上げる方法。

後半では、AIを使って最速で原稿を作る方法を紹介します。

どちらか必要な方だけを読んでも構いません。

ここから先で得られること

自分で書く方が得られるもの

- ・見出しを文章へ変える6つの質問
- ・体験談を読者に役立つ内容へ変える方法
- ・15分でも進められる執筆法
- ・書く作業と直す作業の分け方
- ・原稿が止まったときの再開方法
- ・自力執筆の21日プラン

AIで最速作成する方が得られるもの

- ・見出しごとにAIから取材を受ける方法
- ・自分の経験を引き出す質問プロンプト
- ・回答から原稿を作るプロンプト
- ・自分らしい文章に戻す修正方法
- ・AIの作り話を防ぐ指示
- ・章ごとの文章を一冊につなげる方法
- ・AI執筆の7日プラン

価格は500円です。

今回の記事では、

「自分で頑張って書くしかない」

とも、

「全部AIに任せればいい」

ともお伝えしません。

自分に合った方法を選び、原稿完成まで進むことを目指します。

自分の言葉でじっくり書きたい方も、AIを使って最速で一冊を形にしたい方も、このまま続きをご覧ください。

ここから有料部分です

最初に、今回使うルートを決める

ここからは、次の2つに分かれます。

自分で原稿を書く方

「ルートA 自分で書き上げる方法」へ進んでください。

AIを使って最速で原稿を作る方

「ルートB AIで最速作成する方法」へ進んでください。

最初から両方を行う必要はありません。

まず、中心となる方法を一つ決めてください。

ルートA 自分で書き上げる方法

自分で書く場合の完成基準

自力で原稿を書く場合、最初から出版できる文章を目指さないでください。

最初に目指すのは、

すべての見出しに、必要な材料が入っている状態

です。

次の状態でも、下書きとしては問題ありません。

- ・言葉の重複がある
- ・仮の表現が残っている
- ・確認事項をメモしている
- ・具体例をあとで追加する場所がある
- ・一文が少し長い
- ・箇条書きが残っている

文章を整える作業は、下書き完成後に行います。

一つの見出しを文章にする6つの質問

見出しを見ても文章が出てこない場合は、次の6つへ答えてください。

1. 読者は何に困っているのか

この見出しで扱う悩みを書きます。

2. なぜ、その問題が起きるのか

原因や読者の勘違いを書きます。

3. 最初に伝えたい結論は何か

この見出しで最も伝えたいことを一文にします。

4. 具体的に何をすればいいのか

読者が実行できる手順を書きます。

5. 自分の経験や具体例はあるか

失敗、工夫、相談事例などを書きます。

6. 読者に次に何をしてほしいか

読み終えたあとに行うことを書きます。

6つの回答を文章にする順番

基本的には、次の順番で並べます。

1. 読者の悩み
2. 問題が起きる理由
3. 伝えたい結論
4. 具体的な方法
5. 自分の経験
6. 読者が行うこと

すべての見出しを同じ形にする必要はありません。

書けないときの基本形として使ってください。

自分で書く場合の体験談の入れ方

体験談は、そのまま長く書けばよいわけではありません。

次の5つで整理します。

1. 以前、どのような状態だったか
2. 何に悩んでいたか
3. 何を試したか
4. 何に気づいたか
5. 読者は、その経験をどう生かせるか

最後に読者へ戻すことで、自分語りだけになることを防げます。

体験談のテンプレート

私は以前、〇〇という状態でした。

そのとき、〇〇すればよいと思い、△△を試しました。

しかし、〇〇という理由で、うまくいきませんでした。

そこで、〇〇へ方法を変えました。

その結果、〇〇できるようになりました。

この経験からわかったのは、〇〇ということです。

同じことで悩んでいる方は、まず〇〇から始めてみてください。

書く作業と直す作業を分ける

自力執筆で原稿が止まる大きな原因は、書きながら直すことです。

作業を次の3つに分けます。

1. 材料を出す

箇条書きで構いません。

2. 文章にする

話すように下書きを作ります。

3. 読みやすく整える

重複、改行、言葉の長さを確認します。

一つの見出しを、一日で完成させる必要はありません。

今日は材料を出す。

明日は文章にする。

次の日に整える。

このように分けても構いません。

15分で進める自力執筆メニュー

まとまった時間が取れない日は、次の中から一つだけ行います。

- ・一つの見出しについて、材料を5つ書く
- ・体験談を一つメモする
- ・300文字だけ下書きする
- ・見出しの結論を一文で書く
- ・読者にしてほしい行動を書く
- ・昨日の文章を一つだけ整える

15分で一冊を完成させることはできません。

しかし、15分で原稿を前へ進めることはできます。

自力執筆の21日プラン

1日目

目次と見出しを確認する。

2日目から4日目

すべての見出しへ、材料を箇条書きで入れる。

5日目から14日目

一日一つから三つの見出しを文章にする。

15日目

まだ空白の見出しを確認する。

16日目から18日目

説明不足、具体例、体験談を補う。

19日目

重複した内容を整理する。

20日目

章と見出しの順番を確認する。

21日目

すべての見出しに文章が入っているか確認する。

この段階では、誤字脱字を完璧にする必要はありません。

自分で書いて止まったときの対処法

最初の一文が出ない

結論を仮の言葉で書きます。

「この見出しで伝えたいのは、〇〇です」

から始めても構いません。

表現が気になる

あとで直す場所に印をつけ、先へ進みます。

文章が短い

具体例、失敗例、手順、比較を追加します。

体験談が長い

最後に、

「この経験から読者へ伝えたいこと」

を一文でまとめます。

数日休んでしまった

最初から読み直さず、目次と次に書く見出しだけを確認します。

自力執筆の下書き完成チェック

- すべての見出しに文章が入っている
- 各見出しの結論を一文で言える
- 読者の悩みと解決方法がつながっている
- 必要な具体例が入っている
- 自分の経験が生かされている
- 読者が行うことが示されている
- 「はじめに」で約束した内容が本文にある

ここまでできたら、文章を整える段階へ進みます。

ルートB AIで最速作成する方法

AIで原稿を作るときの基本方針

AIを使った原稿作成は、次の流れで進めます。

1. AIから質問を受ける
2. 自分の経験や考えを答える
3. 回答をもとに下書きを作ってもらう
4. 事実と自分らしさを確認する
5. 一冊全体の文章を整える

最初から、

「この見出しの原稿を書いてください」

とだけ頼まないことが大切です。

先にAIへ取材してもらいます。

AIで最速作成する前に用意するもの

1. 本の企画文

第5回で作成した、

「誰に、どんな方法で、どんな変化を届ける本なのか」

という文章です。

※ここに第5回の記事リンクを挿入

2. 目次と見出し

第7回で作った構成を使います。

※ここに第7回の記事リンクを挿入

3. 著者の経験メモ

完璧な文章でなくて構いません。

- ・過去の失敗
- ・実際に試したこと
- ・人から相談されたこと
- ・大切にしている考え
- ・読者へ伝えたい注意点

を箇条書きで用意します。

ステップ1 AIに一見出しずつ取材してもらう

一冊分を一度に作ろうとしないでください。

一つの見出しごとに、AIから質問を受けます。

AI取材用プロンプト

私は、初心者向けKindle本の原稿を作っています。

あなたは、Kindle出版の編集者兼インタビュアーです。

今回作成する見出しは、

「〇〇」

です。

想定読者は、

「〇〇」

です。

この見出しを読んだあと、読者に、

「〇〇できる状態」

になってほしいと考えています。

私自身の経験や考えを原稿の材料にするため、次の内容について一度に一問ずつ質問してください。

1. 読者が困っていること
2. その問題が起きる理由
3. 私が最も伝えたいこと
4. 具体的な方法や手順
5. 私自身の経験や失敗
6. 実際の例
7. 注意点
8. 読者に最後にしてほしいこと

質問には、答え方の短い例を一つ添えてください。

私の回答が曖昧な場合は、内容を勝手に補わず、さらに具体的な質問をしてください。

まだ原稿は作らず、まず質問を一問ずつ進めてください。

ステップ2 自分の回答から下書きを作ってもら

AIからの質問へ答え終わったら、下書きを依頼します。

下書き作成プロンプト

ここまでの私の回答だけを材料に、この見出しの原稿を作ってください。

条件は次の通りです。

- ・想定読者は初心者
- ・読者の悩みから始める
- ・最初に結論をわかりやすく伝える
- ・難しい専門用語を避ける
- ・私が話していない経験や実績を追加しない
- ・事実が不明な部分を推測しない
- ・一般論だけで終わらず、私の経験を入れる
- ・具体的な手順を示す
- ・読者を過度にあおらない
- ・一文を長くしすぎない
- ・最後に、読者が今できる行動を一つ示す

完成原稿ではなく、私が確認・修正するための下書きとして作ってください。

原稿のあとに、

- ・事実確認が必要な部分
- ・具体例を追加した方がよい部分
- ・説明が不足している部分

も分けて教えてください。

ステップ3 AIの作り話を確認する

AIが作った文章には、自然に見えても、自分が話していない内容が入ることがあります。

次の項目を確認してください。

- ・経験していない話が追加されていないか
- ・持っていない実績が書かれていないか
- ・数字や期間が勝手に作られていないか
- ・実在する制度やサービスの説明が正しいか
- ・「必ず」「誰でも」など、強い約束が加わっていないか

事実ではない部分は、必ず削除または修正します。

ステップ4 自分の言葉へ戻す

AIの文章は読みやすくても、そのままでは自分の話し方と違う場合があります。

次の部分を調整します。

- ・普段使わない言葉
- ・大げさな表現
- ・きれいすぎるまとめ
- ・同じ言葉の繰り返し
- ・AIが好む決まり文句
- ・自分なら言わない励まし方

たとえば、

「新たな未来への一步を踏み出しましょう」

という表現を普段使わないなら、

「まずは、今日できることを一つ決めてみてください」

へ変えます。

自分らしい文章へ整えるAIプロンプト

AI自身に、自分の話し方へ近づけてもらう方法もあります。

ただし、自分が実際に書いた文章を見本として渡します。

文体調整プロンプト

以下に、私が普段書いている文章の見本を貼ります。

【私の文章の見本】

ここに自分が書いた文章を貼る。

次に、AIで作成した原稿を貼ります。

【修正する原稿】

ここに原稿を貼る。

文章の意味や事実を変えず、私の文章の特徴に近づけて整えてください。

条件は次の通りです。

- ・私が使っていない情報を追加しない
- ・過度にきれいな言葉へ変えない
- ・難しい表現を避ける

- ・同じ意味の繰り返しを減らす
- ・一文を長くしすぎない
- ・自然に話しかける文章にする
- ・読者へ上から指導する表現を避ける
- ・私の具体的な経験を残す

修正後に、大きく変えた箇所を簡潔に教えてください。

ステップ5 章ごとの文章を一冊につなげる

AIで一見出しずつ作ると、見出し単体では読みやすくて、一冊全体では同じ説明が繰り返されることがあります。

すべての下書きができたなら、次の点を確認します。

- ・各章の最初に、同じ説明がないか
- ・「大切なのは」という言葉が続いていないか
- ・同じ体験談を何度も使っていないか
- ・前の章で説明したことを、最初から説明していないか
- ・章から章へのつながりがあるか
- ・読者のレベルが途中で変わっていないか

このシリーズと同じように、すでに説明した内容は繰り返さず、

「テーマの決め方は第3回で詳しく解説しています」

と案内する方法もあります。

本の場合も、

「前章で決めた読者像を使います」

のように、前の章へつなげられます。

重複を整理するAIプロンプト

一冊分の原稿ができたあと、AIに重複を探してもらえます。

重複確認プロンプト

以下は、私のKindle本の原稿です。

文章を勝手に書き換えず、まず次の点を確認してください。

- ・同じ内容を繰り返している場所
- ・同じ具体例を複数回使っている場所
- ・前の章で説明済みなのに、再び長く説明している場所
- ・章の順番を変えた方が理解しやすい場所
- ・別の章へ移した方がよい内容

指摘は、

1. 該当する章と見出し
2. 重複している内容
3. どちらへ残すのがおすすめか
4. 短くする場合の方針

の順番でまとめてください。

まだ原稿本文は修正しないでください。

【原稿】

ここに原稿を貼る。

AI最速作成の7日プラン

構成が完成している場合は、次の流れで進められます。

1日目 材料を整理する

- ・企画文
- ・想定読者
- ・目次
- ・自分の経験メモ

を一つにまとめます。

2日目 前半の章をAI取材する

一つの見出しごとに質問を受けます。

3日目 後半の章をAI取材する

残りの見出しについて回答します。

4日目 下書きを作成する

回答をもとに、見出し単位で原稿を作ります。

5日目 事実と自分らしさを確認する

AIが追加した内容を確認し、自分の言葉へ戻します。

6日目 重複と流れを確認する

章をまたいだ重複や、説明の順番を整えます。

7日目 不足部分を追加する

体験談、具体例、読者が行うことを補います。

7日で出版できると約束するものではありません。

テーマや原稿量によって必要な期間は変わります。

ただし、自分で白紙から一文ずつ書くよりも、AI取材と下書きを使うことで、原稿作成時間を短縮しやすくなります。

AIで一冊を一度に作らない

AIには大量の文章を作る能力があります。

だからこそ、

「一冊分をまとめて作ってください」

と頼みたくなるかもしれません。

しかし、一度に作ると、

- ・内容が浅くなる
- ・同じ説明が増える
- ・著者の経験が薄くなる
- ・章ごとの役割が曖昧になる
- ・修正箇所が多くなる

傾向があります。

最速で作りたいからこそ、

一見出しずつ取材し、一見出しずつ確認する

方が、結果的に修正時間を減らせます。

AIへ任せる部分と、自分で行う部分

AIへ任せやすい部分

- ・質問の作成
- ・回答の整理
- ・文章の下書き
- ・重複の発見
- ・見出しの提案
- ・長い文章の要約
- ・読みやすい順番への整理
- ・誤字や表現の確認

自分で行う部分

- ・本のテーマを決める
- ・読者を決める
- ・伝えたい考えを決める
- ・自分の経験を話す
- ・事実を確認する
- ・どの表現を採用するか決める
- ・最終的な責任を持つ

AIは、著者の代わりになるものではありません。

著者の中にある材料を、本の形へ早く変えるための道具です。

自分で書く方法とAI作成を組み合わせる場合

2つを組み合わせるなら、役割を明確にします。

組み合わせ例1

自分で箇条書きを作り、AIに文章へ変えてもらう。

組み合わせ例2

AIから質問を受け、自分で文章を書く。

組み合わせ例3

自分で下書きを作り、AIに重複と読みやすさだけを確認してもらう。

組み合わせ例4

体験談は自分で書き、方法の説明をAIと整理する。

組み合わせ例5

AIで下書きを作り、冒頭とまとめだけ自分で書き直す。

どこまでAIへ任せるかは、自分で決めて構いません。

ただし、事実確認と最終判断は必ず自分で行ってください。

原稿完成の共通チェックリスト

自力執筆でも、AI作成でも、最後に確認する内容は同じです。

- ☐ すべての章と見出しに文章が入っている
- ☐ 読者の悩みと解決方法がつながっている
- ☐ 企画で約束した読後の変化へ進める
- ☐ 自分の経験や具体例が入っている
- ☐ 一般的な情報だけで終わっていない
- ☐ 同じ説明が何度も繰り返されていない
- ☐ 読者が実際に行える手順がある
- ☐ 本文に事実ではない内容がない
- ☐ 強すぎる約束をしていない
- ☐ 「はじめに」と本文が一致している
- ☐ 読み終えたあと、次に何をするかわかる

誤字脱字や文章表現の最終調整は、次の段階で行います。

回遊導線を原稿にも生かす

このnoteシリーズでは、すでに説明した内容を毎回すべて繰り返していません。

必要に応じて、

「テーマの決め方は第3回」

「構成の作り方は第7回」

と案内しています。

これは読者に過去記事も読んでもらう販売導線であると同時に、今読んでいる記事を冗長にしないためでもあります。

Kindle本でも同じ考え方を使えます。

同じ本の中でつなぐ場合

「読者設定については、第2章で作成した内容を使います」

シリーズ本へつなぐ場合

「表紙作成については、次巻で詳しく解説します」

特典へつなぐ場合

「実際に使えるプロンプトは、巻末特典へまとめています」

自分のサービスへつなぐ場合

「一人で企画を整理できない方へ、個別相談も用意しています」

ただし、本文を読んでも内容が理解できないほど、外部へ誘導しすぎないようにしてください。

今回の悩みを解決できる内容は、今回の本の中に入れます。

より詳しく知りたい方へ、次の選択肢を案内します。

最終ワーク 自分の原稿作成ルートを決める

次の項目へ記入してください。

今回選ぶ方法

- ☐ 自分で書く
- ☐ AIで最速作成する
- ☐ 自分で書き、AIに整えてもらう

現在用意できているもの

- ☐ テーマ
- ☐ 読者
- ☐ 企画文
- ☐ タイトル候補
- ☐ 章と見出し
- ☐ 自分の経験メモ

不足しているものがあれば、対応する過去回へ戻ってください。

最初に作る見出し

見出し名：

この見出しで伝えたいこと：

入れる自分の経験：

読者にしてほしいこと：

自分で書く場合

次に書く日時：

作業時間：

今回行う作業：

AIで作る場合

AIから取材してもらう日時：

最初に使うプロンプト：

確認する内容：

今日やること

この記事を読み終えたら、次の3つを行ってください。

1. 中心となる原稿作成方法を選ぶ

自分で書くのか。

AIで最速作成するのか。

自分で書き、AIに整えてもらうのか。

役割を決めてください。

2. 最初の見出しを一つ選ぶ

第1章から始める必要はありません。

最も経験を話しやすい見出しを選びます。

3. 今日中に一度だけ原稿作成を始める

自分で書く方は、6つの質問へ箇条書きで答えます。

AIを使う方は、取材用プロンプトを送り、最初の質問へ答えます。

一冊分を一日で完成させようとしなくて構いません。

まず、一つの見出しを完成へ近づけてください。

最後に

Kindle本を作る方法は、一つではありません。

時間をかけて、自分で一文ずつ書く方法。

AIから質問を受け、自分の回答を原稿へ変える方法。

自分で下書きを作り、AIに読みやすく整えてもらう方法。

どれを選んでも構いません。

大切なのは、

「本は自分の力だけで書かなければならない」

と思い込み、何か月も止まることはありません。

反対に、

「AIがすべて書いてくれる」

と考え、自分の経験が入っていない本を作ることでもありません。

本の中心にあるのは、著者自身の経験や考えです。

AIは、それを読者に届く形へ整えるために使います。

AIを使うことで、文章を書く時間は短縮できます。

考えを整理する時間も減らせます。

一人では言葉にできなかった経験も、質問へ答えることで引き出せます。

だからこそ、AIを使う前に、

誰へ、何を伝えたいのか

を決めることが重要です。

ここまでシリーズを順番に進めてきた方は、すでにテーマ、読者、企画、タイトル、構成を作っています。

あとは、その設計図へ、自分の経験と言葉を入れていくだけです。

自分で書く方は、今日一つの見出しへ材料を入れてください。

AIで作る方は、今日一つの見出しについて取材を受けてください。

一冊を完成させるのは、大きな作業に見えます。

しかし、一つの見出しを作ることなら、今日から始められます。

次回は、

「書いた原稿を、読みやすいKindle本へ整える方法」

をテーマに、文章の重複、長い一文、読みにくい改行、AIらしい表現を修正する方法を解説します。